

近畿中央呼吸器センターで疥癬と診断された患者さまへ

当院における疥癬患者の傾向と対策に関する ICT 活動報告について

近畿中央呼吸器センターでは、疥癬を発症した患者さんの背景を分析し、発症する関連因子を明らかにし、今後の感染防止対策に活かすことができるよう、下記に該当する方を対象に研究を行います。

#### 【疥癬】

疥癬とはヒト皮膚角質層に寄生するヒゼンダニの感染により発症し、ヒゼンダニの虫体、糞、脱皮殻などに対するアレルギー反応による皮膚病変と掻痒を主症状とする感染症です。

通常疥癬では一人の患者に寄生するヒゼンダニの数は少ないと言われており、短期間の接触、衣類・リネンなどを介して感染することは少ないとされています。

それとは逆に、角化型疥癬の場合は100~200万匹の多数のヒゼンダニが存在する為、直接感染だけでなく時としてはそれ以上となり、感染力が強いと言われています。その為重篤な基礎疾患を有する人、免疫能の低下している人、通常疥癬に対して、ステロイド外用剤を塗布した人など、何らかの要因で免疫能が低下している人に発症しやすいとされています。このような状態の患者さんの背景や疥癬発症との関連を研究し、より状況に応じた感染防止対策を講じることは院内感染防止対策を行う上で貴重な情報となります。

#### 【調査の対象となる方】

近畿中央呼吸器センターに入院した患者さんで、2016年12月から2018年3月までの間に疥癬と診断を受けた方

#### 【調査方法】

疥癬の診断を受けた患者さんのカルテから、内服薬や皮疹の状況などについてのデータを使用します。したがって本研究では、対象の患者さんから新たな検体の提出を求めたりすることはありません。カルテに記載された情報のみが検討対象であり、遺伝情報（DNA）を取り出したり保存したりする操作は行いません。企業から本研究への資金援助は受けません。

#### 【調査に当たって患者さんの負担と利益】

この調査によって、患者さんにおかけする新たな負担はありません。また、患者さんにもたらされる直接の利益はありません。研究結果によって生み出される利益は研究者に帰属します。

#### 【個人情報の保護について】

データは匿名化（連結可能匿名化）し、鍵がかかる部屋の外部接続の無いコンピュータにパスワードを設定し保存します。研究結果は学会や専門誌を通じて発表いたしますが、患者さんが特定されるような形では発表いたしません。研究発表後データは消去し、記憶媒体は物理的破壊後廃棄します。

#### 【この研究の医学的意義】

抗がん剤や免疫抑制剤、ステロイドの内服などで易感染状態にある患者さんは、疥癬の影響を受けやすい傾向にあります。今回の経験から、病院毎の特殊事情を踏まえて既存の感染対策を改善していくことが必要であると啓発することができると考えています。

#### 【データ提供を希望されない場合】

研究対象に該当する方でデータ提供を希望されない場合は下記連絡先までご連絡ください。データ提供を拒否されても今後の診療に不利益をこうむることはありません。

**【その他】**

将来研究の成果が特許権等の知的財産権を生み出す可能性がある場合はその権利は以下の事務局に帰属します。

**【ご不明な点や研究計画の詳細についてお尋ねになりたいことがありましたら、下記事務局までお問い合わせ下さい】。**

〒591-8555 堺市北区長曾根町1180 国立病院機構 近畿中央呼吸器センター

看護部 大槻登季子 TEL 072-252-3021 FAX 072-251-1372

\* この調査は病院外の専門家の方を含んだ臨床試験審査委員会における厳正な審査・承認を受けて近畿中央呼吸器センター院長の許可を得て実施しております。